平成 21 年度言語研修
パンジャービー語研修テキスト 1

文　字　と　発　音

岡口典雄　萩田博　著

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
2009

Intensive Language Courses 2009
Punjabi Textbook 1

SCRIPT and PRONUNCIATION

by

Norio OKAGUCHI

and Hiroshi HAGITA

Research Institute for Languages
and Cultures of Asia and Africa
Tokyo University of Foreign Studies
2009

まえがき

本書は，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2009 年（平成 21 年）度言語研修「パンジャービー語」のテキストとして作成されました。

本書の作成にあたって，『エクスプレス・パンジャービー語』（岡口典雄著，白水社 1988）と『基礎パンジャービー語』（萩田博著，大学書林，1996）を自由に参照しました。

今回の言語研修ではインドのアムリトサルとパーキスターンのラホールを中心として話されているマージー方言を標準パンジャービー語として学習します。マージー方言に基づく両国の標準パンジャービー語は，声調などの音韻的特性や文法は基本的に同じですが，表記文字がまったく異なります。インドではインド系のグルムキー文字で書かれ，パーキスターンではアラビア系のシャームキー文字で書かれます。今回の研修では，まずグルムキー文字を用いてパンジャービー語の音韻と文法の基礎的範囲を学習します。その後シャームキーによる表記体系も学習し，語彙の一部が入れ替わったパーキスターン国内のパンジャービー語を学習します。

本書はグルムキー文字編，シャームキー文字編の順に構成されています。グルムキー文字編とシャームキー文字編の間には両文字の対照表があります。この表は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の町田和彦教授に作成していただいたものです。学習者は，この表によって，デーヴァナーガリー文字を含めた各文字の関係を全体像として確認できます。この表は，グルムキー文字とシャームキー文字の両方の表記体系を用いる今回の研修にとっては，まさに貴重な橋渡し役となっています。

町田和彦教授には，グルムキー文字・シャームキー文字・発音表記を含む組版のパソコンによる処理のすべてに御尽力いただきました。言語研修「パンジャービー語」の準備と開催にあたり，多くの方々の御協力をいただきました。心から御礼申し上げます。また、テキストで使用されたグルムキー文字・シャームキー文字のフォントはアジア・アフリカ言語文化研究所に置かれている文字情報学の研究拠点 GICAS 「アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成」で開発されたものを使用させていただきました。

岡口典雄

2009 年 6 月 21 日

目次

	文字の対照表	2
1.	グルムキー文字について	5
2.	字母表	7
3.	文字の名称	8
4.	母音	10
5.	母音字	11
6.	子音字	13
7.	母音記号	22
8.	鼻音化記号	24
9.	促音化記号	26
10.	付加文字	27
11.	半子音字	29
12.	声調	30
13.	ਰ を含むつづりの発音	36
	シャームキー文字と発音	39

文字の対照表

下の表は、デーヴァナーガリー文字(DN)、グルムキー文字(GM)、シャームキー文字(SM)を対照した表である。順序はグルムキー文字にあわせている。シャームキー文字は独立字のみを示す。

Tr は本書で使用されている転写記号、IPA は国際音声記号を示す。

文字名(GM, SM)直後の 2 桁数字は、各文字の伝統的な文字表における順番を示す。SM00 は該当する文字がないことを意味する。数字の後に a, b, c, d, e がついている文字（の連続）は伝統的な文字表には含まれない。

(　)内は既成の文字での代用であることを示す。

DN	Tr	IPA	GM##	GM	Tr	IPA	SM##	SM
			GM01	ੳ			SM00	
उ	u	[u]	GM01a	ਉ	u	[u]	SM01c	اُ
ऊ	ū	[uː]	GM01b	ਊ	ū	[uː]	SM01d	او
ओ	o	[oː]	GM01c	ਓ	o	[oː]	SM01d	او
अ	a	[ə]	GM02	ਅ	a	[ə]	SM01	ا
(अ)	(a)	([ə])	(GM02)	(ਅ)	(a)	([ə])	SM24	ع
आ	ā	[aː]	GM02a	ਆ	ā	[aː]	SM01a	آ
ऐ	ai	[ɛː]	GM02b	ਐ	ɛ	[ɛː]	SM01e	اے
औ	au	[ɔː]	GM02c	ਔ	ɔ	[ɔː]	SM01d	او
			GM03	ੲ			SM00	
इ	i	[i]	GM03a	ਇ	i	[i]	SM01b	اِ
ई	ī	[iː]	GM03b	ਈ	ī	[iː]	(SM35)	(ای)
ए	e	[eː]	GM03c	ਏ	e	[eː]	SM01e	اے
स	sa	[sə]	GM04	ਸ	sa	[sə]	SM18	س
श	śa	[ʃə]	GM04a	ਸ਼	śa	[ʃə]	SM19	ش
ष	ṣa	[ʃə]	(GM04a)	(ਸ਼)	(śa)	([ʃə])	(SM19)	(ش)
(स)	(sa)	([sə])	(GM04)	(ਸ)	(sa)	([sə])	SM06	ث

(स)	(sa)	([sə])	(GM04)	(ਸ)	(sa)	([sə])	SM20	ص
ह	ha	[hə]	GM05	ਹ	ha	[hə]	SM34	ہ
(ह)	(ha)	([hə])	(GM05)	(ਹ)	(ha)	([hə])	SM09	ح
क	ka	[kə]	GM06	ਕ	ka	[kə]	SM28	ک
क़	qa	[qə]	GM06a	ਕ਼, ਕ	qa, ka	[kə]	SM27	ق
ख	kʰa	[kʰə]	GM07	ਖ	kʰa	[kʰə]	SM28a	کھ
ख़	xa	[xə]	GM07a	ਖ਼	xa	[xə]	SM10	خ
ग	ga	[gə]	GM08	ਗ	ga	[gə]	SM29	گ
ग़	ğa	[ɣə]	GM08a	ਗ਼	ğa	[ɣə]	SM25	غ
घ	gʰa	[gʰə]	GM09	ਘ	kà, ◌́ga	[kə̀, ◌́gə]	SM29a	گھ
ङ	ṅa	[ŋə]	GM10	ਙ	ṅa	[ŋə]	(SM32)	(ن)
च	ca	[ʧə]	GM11	ਚ	ca	[ʧə]	SM08	چ
छ	cʰa	[ʧʰə]	GM12	ਛ	cʰa	[ʧʰə]	SM08a	چھ
ज	ja	[ʤə]	GM13	ਜ	ja	[ʤə]	SM07	ج
(ज)	(ja)	([ʤə])	(GM13)	(ਜ)	(ja)	([ʤə])	SM17	ژ
ज़	za	[zə]	GM13a	ਜ਼	za	[zə]	SM16	ز
(ज़)	(za)	([zə])	(GM13a)	(ਜ਼)	(za)	([zə])	SM13	ذ
(ज़)	(za)	([zə])	(GM13a)	(ਜ਼)	(za)	([zə])	SM21	ض
(ज़)	(za)	([zə])	(GM13a)	(ਜ਼)	(za)	([zə])	SM23	ظ
झ	jʰa	[ʤʰə]	GM14	ਝ	cà, ◌́ja	[ʧə̀, ◌́ʤə]	SM07a	جھ
ञ	ña	[ɲə]	GM15	ਞ	ña	[ɲə]	(SM32)	(ن)
ट	ṭa	[ʈə]	GM16	ਟ	ṭa	[ʈə]	SM05	ٹ
ठ	ṭʰa	[ʈʰə]	GM17	ਠ	ṭʰa	[ʈʰə]	SM05a	ٹھ
ड	ḍa	[ɖə]	GM18	ਡ	ḍa	[ɖə]	SM12	ڈ
ढ	ḍʰa	[ɖʰə]	GM19	ਢ	ṭà, ◌́ḍa	[ʈə̀, ◌́ɖə]	SM12a	ڈھ
ण	ṇa	[ɳə]	GM20	ਣ	ṇa	[ɳə]	SM32a	ڻ
त	ta	[tə]	GM21	ਤ	ta	[tə]	SM04	ت
(त)	(ta)	([tə])	(GM21)	(ਤ)	(ta)	([tə])	SM22	ط

थ	tʰa	[tʰə]	GM22	ਥ	tʰa	[tʰə]	SM04a	تھ
द	da	[də]	GM23	ਦ	da	[də]	SM11	د
ध	dʰa	[dʰə]	GM24	ਧ	tà, ◌́da	[tə̀, ◌́də]	SM11a	دھ
न	na	[nə]	GM25	ਨ	na	[nə]	SM32	ن
प	pa	[pə]	GM26	ਪ	pa	[pə]	SM03	پ
फ	pʰa	[pʰə]	GM27	ਫ	pʰa	[pʰə]	SM03a	پھ
फ़	fa	[fə]	GM27a	ਫ਼	fa	[fə]	SM26	ف
ब	ba	[bə]	GM28	ਬ	ba	[bə]	SM02	ب
भ	bʰa	[bʰə]	GM29	ਭ	pà, ◌́ba	[pə̀, ◌́bə]	SM02a	بھ
म	ma	[mə]	GM30	ਮ	ma	[mə]	SM31	م
य	ya	[jə]	GM31	ਯ	ya	[jə]	SM35	ی
र	ra	[rə]	GM32	ਰ	ra	[rə]	SM14	ر
ल	la	[lə]	GM33	ਲ	la	[lə]	SM30	ل
व	va	[və]	GM34	ਵ	va	[və]	SM33	و
ड़	ṛa	[ɽə]	GM35	ੜ	ṛa	[ɽə]	SM15	ڑ
ढ़	ṛʰa	[ɽʰə]	GM35a	ੜ੍ਹ	ṛà, ◌́ṛa	[ɽə̀, ◌́ɽə]	SM15a	ڑھ
०			GMn0	੦			SMn0	۰
१			GMn1	੧			SMn1	۱
२			GMn2	੨			SMn2	۲
३			GMn3	੩			SMn3	۳
४			GMn4	੪			SMn4	۴
५			GMn5	੫			SMn5	۵
६			GMn6	੬			SMn6	۶
७			GMn7	੭			SMn7	۷
८			GMn8	੮			SMn8	۸
९			GMn9	੯			SMn9	۹

1. グルムキー文字について

南アジアから東南アジアにかけて広く用いられているほとんどの文字は，ブラーフミー文字に起源をたどることができます。これらの文字を総称してインド系文字と呼びます。グルムキー文字もインド系文字の１つです。子音字と母音記号を組み合わせて音節を表すしくみを持っています。グルムキー文字が文字体系として整備され，実際に用いられるようになったのは 16 世紀前半です。多くのインド系文字の中でもグルムキー文字は最も新しい文字体系です。

インドのパンジャーブ州アムリトサル県南東部のビアース川に近いカドゥールは，スィック教の第２代グル・アンガド（1504～1552）が移り住み，活動の拠点とした村です。グルとはスィック教の教主を意味する尊称です。村に建立されたグルドゥワーラー（スィック教徒の礼拝堂）の堂内にはグルムキー文字の字母表が掲げられ，表の下には「このグルムキー文字は衆生の救済のためにグル・アンガドが創始した」と書かれています。

グルムクは「グルの口」を意味し，「グルの口から発せられた教えに従う敬虔なスィック教徒」に対する呼称です。グルムクが用いた文字体系の名称がグルムキーです。グル・アンガドは歴代のグルの中でもとりわけ子供の教育に情熱を注いだことで知られ，教育手段としての文字体系の改良と整備に大きな業績を残しました。しかし独自の文字体系をすべて創始したわけではありません。字母表の配置整備や字形の改良などは確認されますが，個々の字体はスィック教の開祖グル・ナーナク（1469～1539）以前の時代から存在していたものを多く含んでいます。

それまでインド北西部ではカースト集団を中心とする各コミュニティーが，それぞれに独自の情報の伝達や記録の手段として，固有の文字を用いていました。ヒマラヤ山麓部ではターカリー文字，また平野部ではランダー文字と総称されます。しかしこれらの文字はあまりにも多様なその形状のために難読であり，母音表記法も不完全でした。グル・アンガドはターカリー文字・ランダー文字に含まれる種々の字体を取捨選択し，字母表に配置し，さらに母音組織も整備しました。このグルムキー文字はスィック教徒のみならず，パンジャーブ州一帯に広まり，今日ではインドのパンジャーブ州の公用語であるパンジャービー語の表記文字となっています。

2. 字母表

グルムキー文字の字母表は３５種の基本形の文字から成り， ਪੈਂਤੀ pɛ̃tī [パェーンティー] と呼ばれます。

ਪੈਂਤੀ は３５を表すパンジャービー語の基数詞です。

	第１列	第２列	第３列	第４列	第５列
第I段	01 ੳ	02 ਅ	03 ੲ	04 ਸ	05 ਹ
第II段	06 ਕ	07 ਖ	08 ਗ	09 ਘ	10 ਙ
第III段	11 ਚ	12 ਛ	13 ਜ	14 ਝ	15 ਞ
第IV段	16 ਟ	17 ਠ	18 ਡ	19 ਢ	20 ਣ
第V段	21 ਤ	22 ਥ	23 ਦ	24 ਧ	25 ਨ
第VI段	26 ਪ	27 ਫ	28 ਬ	29 ਭ	30 ਮ
第VII段	31 ਯ	32 ਰ	33 ਲ	34 ਵ	35 ੜ

3. 文字の名称

３５種の文字にはそれぞれの名称があります。

グルムキー文字３５種の名称

番号	文字	文字の名称		
01	ੳ	ਊੜਾ	ūṛā	ウーラー
02	ਅ	ਐੜਾ	ɛṛā	アェーラー
03	ੲ	ਈੜੀ	īṛī	イーリー
04	ਸ	ਸੱਸਾ	sassā	サッサー
05	ਹ	ਹਾਹਾ	hāhā	ハーハー
06	ਕ	ਕੱਕਾ	kakkā	カッカー
07	ਖ	ਖੱਖਾ	k^{h}akk^{h}ā	カッカー
08	ਗ	ਗੱਗਾ	gaggā	ガッガー
09	ਘ	ਘੱਘਾ	kàggā	カッガー
10	ਙ	ਙੰਙਾ	ṅaṅṅā	ンガンンガー
11	ਚ	ਚੱਚਾ	caccā	チャッチャー
12	ਛ	ਛੱਛਾ	c^{h}acc^{h}ā	チャッチャー
13	ਜ	ਜੱਜਾ	jajjā	ジャッジャー
14	ਝ	ਝੱਝਾ	càjjā	チャッジャー
15	ਞ	ਞੰਞਾ	ñaññā	ニャンニャー
16	ਟ	ਟੈਂਕਾ	ṭɛ̃ā	タェーンカー
17	ਠ	ਠੱਠਾ	ṭ^{h}aṭṭ^{h}ā	タッター
18	ਡ	ਡੱਡਾ	ḍaḍḍā	ダッダー
19	ਢ	ਢੱਢਾ	ṭàḍḍā	タッダー
20	ਣ	ਣਾਣਾ	ṇāṇā	ナーナー

番号	文字	文字の名称		
21	ਤ	ਤੱਤਾ	tattā	タッター
22	ਥ	ਥੱਥਾ	t^{h}att^{h}ā	タッター
23	ਦ	ਦੱਦਾ	daddā	ダッダー
24	ਧ	ਧੱਧਾ	tàddā	タッダー
25	ਨ	ਨੰਨਾ	nannā	ナンナー
26	ਪ	ਪੱਪਾ	pappā	パッパー
27	ਫ	ਫੱਫਾ	p^{h}app^{h}ā	パッパー
28	ਬ	ਬੱਬਾ	babbā	バッバー
29	ਭ	ਭੱਭਾ	pàbbā	パッバー
30	ਮ	ਮੰਮਾ	mammā	マンマー
31	ਯ	ਯੱਯਾ	yayyā	ヤッヤー
32	ਰ	ਰਾਰਾ	rārā	ラーラー
33	ਲ	ਲੱਲਾ	lallā	ラッラー
34	ਵ	ਵੱਵਾ	vavvā	ワッワー（ヴァッヴァー）
35	ੜ	ੜਾੜਾ	ṛāṛā	ラーラー

4. 母音

母音は１０音（ a ā i ī u ū e ɛ o ɔ ）あります。

(1) 母音三角形

i ī e ੲ　　　　　ੳ u ū o

03　　　01

▽

02

ਅ

a ā ɛ ɔ

(2) 舌の位置と口の開き

左右は発音のときの口の中の舌の位置で，左に行くほど前で右に行くほど後ろになっています。

上下は口の開きで，上に行くほど狭く下に行くほど広くなっています。

	前舌		中舌		後舌
狭	ī ਈ				ū ਊ
		i ਇ		u ਉ	
半狭	e ਏ				o ਓ
			a ਅ		
半広	ɛ ਐ				ɔ ਔ
広			ā ਆ		

5. 母音字

(1) 字形と配列

字母表の初めの３文字 ੳ ਅ ੲ が母音字の基本となる字形です。これら３文字のうち ਅ は，そのままの形で，１０母音の１つ a を表します。残りの母音のうちの８つ ਉ ਊ ਆ ਐ ਔ ਇ ਈ ਏ は，基本形３文字の上下左右に母音記号と同じ形を付加したものです。 ਓ は， ੳ の上部を変形させたものです。

次に１０種の母音字とその発音を示します。グルムキー文字表記の辞書における見出し語の配列順です。同じ母音でも母音字と母音記号では順序が異なりますので，注意してください。母音字では u ū o a ā ɛ ɔ i ī e の順，母音記号では a ā i ī u ū e ɛ o ɔ の順です。

(2) 母音字とその発音

番号	文字	発音		発音要領
01a	ਉ	u	[ウ]	唇を丸めて前に突き出して発音する短母音「ウ」。
01b	ਊ	ū	[ウー]	唇を丸めて前に突き出し ਉ 「ウ」よりは少し舌を後ろに引いて発音する長母音「ウー」。
01c	ਓ	o	[オー]	唇を丸くし前に突き出して発音する長母音「オー」。
02	ਅ	a	[ア]	唇に力を入れず小さな口の開きのまま発音するあいまい短母音「ア」。
02a	ਆ	ā	[アー]	口を大きく開き唇を緊張させて発音する長母音「アー」。
02b	ਐ	ɛ	[アェー]	ਏ 「エー」より口を広く開けて発音する「アー」と「エー」の中間の長母音「アェー」。
02c	ਔ	ɔ	[アォー]	ਓ 「オー」より口を大きく開けて発音する「アー」と「オー」の中間の長母音「アォー」。
03a	ਇ	i	[イ]	日本語の「イ」より唇をもっと左右に張り緊張させて発音する短母音「イ」。
03b	ਈ	ī	[イー]	ਇ 「イ」より口は狭く日本語の「イー」より唇をもっと左右に張り緊張させて発音する長母音「イー」。
03c	ਏ	e	[エー]	ਐ 「アェー」より口は狭く舌を持ち上げて発音する長母音「エー」。

6. 子音字

(1) 字母表における子音字の配置

字母表の３５文字のうち，母音字を形成する (01) から (03) までを除く，残りの３２文字が子音字です。単独の子音字は，子音に母音 a (02) を添えて発音します。

第II段から第VI段に配置された (06) から (30) までの２５文字は破裂音または破擦音を表します。いずれも舌または唇によって呼気を一瞬閉じて破裂するように発音する音です。これらの各段の５つ子音字は，どれも同じ調音点（呼気を閉じるときの舌や唇の位置）で発音します。

第II段から第VI段の各列５つの子音の構成を下の表に示します。

第１列	第２列	第３列	第４列	第５列
無声・無気音	無声・有気音	有声・無気音	無声・声調・無気音 有声・声調・無気音	鼻子音

第I段の第４列・第５列と第VII段に残りの７つの子音字が配置されています。(04) は歯擦音， (05) は声門摩擦音または声調音です。第VII段の第１列から第４列までの４つ (31 〜 34) は半母音，最後の第５列 (35) は反り舌弾音です。

(2) 無声音と有声音

無声音とは，呼気が喉頭を通るときに声帯を震動させずそのまま通り抜けて出る音です。

字母表の第１列では，第II段の「カ」，第III段の「チャ」など。

有声音とは，呼気による声帯の周期的な震動を伴う音です。

字母表の第３列では，第II段の「ガ」，第III段の「ジャ」など。

(3) 無気音と有気音

無気音とは，発音するときに呼気が強く出ない音です。

有気音とは，発音するときに呼気が強く出る音です。

例えば，字母表の第II段では，第１列の「カ」と第２列「カ」は同じカナ表記ですが，無気音の ka と有気音の k^ha の区別があります。発音表記では，有気音であることを ^{h} で表します。この音の区別を日本語ではしていませんが，パンジャービー語では，文字も異なり意味の差異にも関係してきます。

パンジャービー語には，無声・有気音はありますが，有声・有気音はありません。

(4) 声調

パンジャービー語には，声調と呼ばれる音程の高低変化の現象があります。第４列の５種 ਘ ਝ ਢ ਧ ਭ (09) (14) (19) (24) (29) が，声調・無気音（声調を伴った無気音）です。また第I段・第５列の ਹ (05) も語頭以外の位置では，多くの場合，子音 h が消失し，声調を表します。かなり小さく縮小された形となって他の子音字の下に付く ਹ (05) も，子音 h ではなく，声調を表します。これらをまとめて声調文字と呼ぶことにします。発音表記では，母音の上に，高声調は ◌́，低声調は ◌̀ の記号を付けて表します。

(5) 子音字とその発音

＜1＞ 摩擦音のグループ

番号	文字	発音		発音要領
04	ਸ	sa	［サ］	歯擦音の「サ」。
05	ਹ	ha	［ハ］	声門摩擦音の「ハ」。
05	ਹ	◌́ ◌̀		声調音（高声調または低声調）。

＜2＞ 軟口蓋破裂音のグループ

後舌を軟口蓋に付けた破裂音。

番号	文字	発音		発音要領
06	ਕ	ka	［カ］	無声・無気音。呼気の強くない「カ」。
07	ਖ	k^ha	［カ］	無声・有気音。呼気の強い「カ」。
08	ਗ	ga	［ガ］	有声・無気音。呼気の強くない「ガ」。
09	ਘ	kà	［カ］	低声調・無声・無気音。尻上がりの調子で発音する「カ」
		gà	［ガ］	低声調・有声・無気音。尻上がりの調子で発音する「ガ」。
		◌́ ga	［ガ］	高声調・有声・無気音。直前の音節を高い音程にし，下げる調子で続ける「ガ」。
10	ਙ	ṅa	［ンガ］	「カ」「ガ」の前の鼻子音の「ンガ」。

＜3＞ 硬口蓋破擦音のグループ

前舌を，上歯の付け根近くの硬口蓋に付けた破裂音。

番号	文字	発音		発音要領
11	ਚ	ca	［チャ］	無声・無気音。呼気の強くない「チャ」。
12	ਛ	$c^{h}a$	［チャ］	無声・有気音。呼気の強い「チャ」。
13	ਜ	ja	［ジャ］	有声・無気音。呼気の強くない「ジャ」。
14	ਝ	cà	［チャ］	低声調・無声・無気音。尻上がりの調子で発音する「チャ」。
		jà	［ジャ］	低声調・有声・無気音。尻上がりの調子で発音する「ジャ」。
		◌́ ja	［ジャ］	高声調・有声・無気音。。直前の音節を高い音程にし，下げる調子で続ける「ジャ」。
15	ਞ	ña	［ニャ］	「チャ」「ジャ」の前の鼻子音の「ニャ」。

＜4＞ 反り舌破裂音のグループ

舌先を上に反らし，先端を上歯の付け根より奥に付けた破裂音。

番号	文字	発音		発音要領
16	ਟ	ṭa	[タ]	無声・無気音。反り舌にした呼気の強くない「タ」。
17	ਠ	ṭʰa	[タ]	無声・有気音。反り舌にした呼気の強い「タ」。
18	ਡ	ḍa	[ダ]	有声・無気音。反り舌にした呼気の強くない「ダ」。
19	ਢ	ṭà	[タ]	低声調・無声・無気音。尻上がりの調子で発音する，反り舌にした「タ」。
		ḍà	[ダ]	低声調・有声・無気音。尻上がりの調子で発音する，反り舌にした「ダ」。
		◌́ ḍa	[ダ]	高声調・有声・無気音。直前の音節を高い音程にし，下げる調子で続ける，反り舌にした「ダ」。
20	ਣ	ṇa	[ナ]	反り舌にした鼻子音の「ナ」。

＜5＞ 歯裏破裂音のグループ

舌先を上歯の裏に付けた破裂音。

番号	文字	発音		発音要領
21	ਤ	ta	[タ]	無声・無気音。舌先を上歯の裏に付けた 呼気の強くない「タ」。
22	ਥ	$t^{h}a$	[タ]	無声・有気音。舌先を上歯の裏に付けた 呼気の強い「タ」。
23	ਦ	da	[ダ]	有声・無気音。舌先を上歯の裏に付けた 呼気の強くない「ダ」。
24	ਧ	tà	[タ]	低声調・無声・無気音。尻上がりの調子で発音する， 舌先を上歯の裏に付けた「タ」。
		dà	[ダ]	低声調・有声・無気音。尻上がりの調子で発音する， 舌先を上歯の裏に付けた「ダ」。
		◌́ da	[ダ]	高声調・有声・無気音。直前の音節を高い音程にし， 下げる調子で続ける，舌先を上歯の裏に付けた「ダ」。
25	ਨ	na	[ナ]	鼻子音の「ナ」。

＜6＞ 両唇破裂音のグループ

両唇を付ける破裂音。

番号	文字	発音		発音要領
26	ਪ	pa	[パ]	無声・無気音。呼気の強くない「パ」。
27	ਫ	p^ha	[パ]	無声・有気音。呼気の強い「パ」。
28	ਬ	ba	[バ]	有声・無気音。呼気の強くない「バ」。
29	ਭ	pà	[パ]	低声調・無声・無気音。尻上がりの調子で発音する「パ」。
		bà	[バ]	低声調・有声・無気音。尻上がりの調子で発音する「バ」。
		◌́ ba	[バ]	高声調・有声・無気音。。直前の音節を高い音程にし，下げる調子で続ける「バ」。
30	ਮ	ma	[マ]	両唇を付ける鼻子音の「マ」。

＜7＞ 半母音のグループ

番号	文字	発音		発音要領
31	ਯ	ya	［ヤ］	半母音の「ヤ」。
32	ਰ	ra	［ラ］	舌端を歯茎付近でふるわせた歯茎ふるえ音，いわゆる巻き舌の「ラ」。
33	ਲ	la	［ラ］	舌先を上の歯茎にあて，舌の両側から呼気を出して発音する「ラ」。
34	ਵ	wa	［ワ］	両唇・半母音の「ワ」。
		va	［ヴァ］	上歯で下唇を軽く押さえ，その隙間から呼気を出す唇歯・半母音の「ヴァ」。

＜8＞ 反り舌弾音

番号	文字	発音		発音要領
35	ੜ	ṛa	［ラ］	反り舌にし，舌の裏面で硬口蓋を弾むように打って発音する，反り舌・弾音の「ラ」。

＜9＞ 新たに加わった子音

　サンスクリット語や他の近代インド・アーリア諸語の音と，アラビア語・ペルシア語や英語からの外来語に用いられる音があります。これらの音は，近い関係にある元の文字（ a を除いた番号の文字）の下部に点を付けた文字で表します。辞書の配列上は，元の文字と同じに見なされます。

番号	文字	発音		発音要領
04a	ਸ਼	śa	［シャ］	歯擦音の「シャ」。
06a	ਕ਼	qa	［カ］	ウルドゥー語などでは「クァ」と発音されますが，パンジャービー語では ਕ と同じ音になります。軟口蓋破裂音（無声・無気音）の「カ」。
07a	ਖ਼	xa	［カ］	うがいのときのように奥舌を軟口蓋の後部に近づけ，その狭い隙間から擦って出す「カ」。
08a	ਗ਼	ğa	［ガ］	うがいのときのように奥舌を軟口蓋の後部に近づけ，その狭い隙間から擦って出す「ガ」。
13a	ਜ਼	za	［ザ］	有声・歯茎・摩擦音の「ザ」。
27a	ਫ਼	fa	［ファ］	無声・唇歯・摩擦音の「ファ」。

7. 母音記号

各子音字は単独では母音 a (02) を添えて発音されますが，その他の母音を伴う子音は，子音字に各母音に対応する次のような母音記号を付けます。辞書における母音記号の配列順に示します。 ◌ は任意の子音字を表します。

字母表の３５文字だけでなく１０種の母音記号・鼻音化記号・促音化記号にもすべて名称があります。口頭でつづりを伝える場合，発音だけに依らず，文字や記号のイメージと直結した呼び名を活用することができます。

例えば ਆਸ ［アース］「希望」のつづりは ਐੜੇ ਨੂੰ ਕੰਨਾ ਸੱਸਾ ਆਸ ɛṛe nū̃ kannā sassā ās ［アェーレー　ヌーン　カンナー　サッサー　アース］「アェーラー（母音字基本形）にカンナー（母音記号）を付け，サッサー（子音字）を続けて，アース」と伝えます。

番号	母音記号	発音		名称		
02	◌	a	ア	ਮੁਕਤਾ	muktā	ムクター
02a	◌ਾ	ā	アー	ਕੰਨਾ	kannā	カンナー
03a	ਿ◌	i	イ	ਸਿਹਾਰੀ	sihārī	スィハーリー
03b	◌ੀ	ī	イー	ਬਿਹਾਰੀ	bihārī	ビハーリー
01a	◌ੁ	u	ウ	ਔਂਕੜ	ɔ̃kaṛ	アオーンカル
01b	◌ੂ	ū	ウー	ਦੁਲੈਂਕੜੇ	dulɛ̃kaṛe	ドゥラェーンカレー
03c	◌ੇ	e	エー	ਲਾਂ	lā̃	ラーン
02b	◌ੈ	ɛ	アェー	ਦੁਲਾਵਾਂ	dulāwā̃	ドゥラーワーン
01c	◌ੋ	o	オー	ਹੋੜਾ	hoṛā	ホーラー
02c	◌ੌ	ɔ	アオー	ਕਨੌੜਾ	kanɔṛā	カナオーラー

子音字 ਕ に母音記号が付いた例を示します。

番号	ਕ ＋ 母音記号	発音	
02	ਕ	ka	カ
02a	ਕਾ	kā	カー
03a	ਕਿ	ki	キ
03b	ਕੀ	kī	キー
01a	ਕੁ	ku	ク
01b	ਕੂ	kū	クー
03c	ਕੇ	ke	ケー
02b	ਕੈ	kɛ	カェー
01c	ਕੋ	ko	コー
02c	ਕੌ	kɔ	カォー

8. 鼻音化記号

各母音に対応する鼻母音（鼻からも息を出す母音）があります。発音表記では ˜ で表します。カタカナでは鼻子音と同じく「ン」と表記します。鼻母音は，母音字または母音記号の付いた子音字の上部の横線の上に次の２種の鼻音化記号を付けます。それぞれ「ティッピー」「ビンディー」という名称で呼ばれます。

記号	名称		形
◌ੰ	ਟਿੱਪੀ	ṭippī ティッピー	小さな円の下の部分が開いた形。
◌ਂ	ਬਿੰਦੀ	bindī ビンディー	小さな点の形。

母音字の場合，ティッピーは短母音 a , i に，ビンディーは短母音 u とすべての長母音に付きます。

母音字＋	鼻音化記号	発音	
02	ਅੰ	ã	アン
02a	ਆਂ	ā̃	アーン
03a	ਇੰ	ĩ	イン
03b	ਈਂ	ī̃	イーン
01a	ਉਂ	ũ	ウン
01b	ਊਂ	ū̃	ウーン
03c	ਏਂ	ẽ	エーン
02b	ਐਂ	ɛ̃	アェーン
01c	ਓਂ	õ	オーン
02c	ਔਂ	ɔ̃	アオーン

母音記号の場合，ティッピーはすべての短母音と長母音 ū に，ビンディーは残りのすべての長母音に付きます。

子音字 ਕ に母音記号と鼻音化記号が付いた例を示します。

母音記号＋	鼻音化記号	発音	
02	ਕੰ	kã	カン
02a	ਕਾਂ	kā̃	カーン
03a	ਕਿੰ	kĩ	キン
03b	ਕੀਂ	kī̃	キーン
01a	ਕੁੰ	kũ	クン
01b	ਕੂੰ	kū̃	クーン
03c	ਕੇਂ	kẽ	ケーン
02b	ਕੈਂ	kɛ̃	カェーン
01c	ਕੋਂ	kõ	コーン
02c	ਕੌਂ	kɔ̃	カォーン

鼻音化記号は，鼻母音だけでなく鼻子音も表します。表す鼻子音は，直後にくる子音が字母表において属する段の第５列にある鼻子音です。

字母表の段				
第II段	ਰੰਗ	raṅg	ラング	色
第III段	ਪੰਜ	pañj	パンジュ	５，５つの
第IV段	ਪਿੰਡ	piṇḍ	ピンド	村
第V段	ਬੰਦ	band	バンド	閉じた
第VI段	ਅੰਬ	amb	アンブ	マンゴー

9. 促音化記号

日本語では，促音（次の音節の初めの子音と中止的破裂または摩擦をなし，１音節を成すもの）すなわち「つまる音」を表すために，小さな文字の「っ」を用いますが，これとまったく同じ働きをするのが，「アダク」 ਅਧਕ ádak と呼ばれる記号です。小さな半月形をお皿のように横に置いた形 ◌ੱ で，促音化する子音字と直前の文字の上部の横線の上に付けられます。発音表記では，重子音（同一子音の重なった発音）として表記します。

ਅੱਖ	akk^h	アック	目
ਇੱਕ	ikk	イック	１，１つの
ਸੱਪ	sapp	サップ	蛇
ਹੱਥ	$hatt^h$	ハット	手
ਕੱਚ	kacc	カッチュ	ガラス
ਗੱਪ	gapp	ガップ	無駄話，うわさ話
ਡੱਬਾ	ḍabbā	ダッバー	箱，車室
ਪੱਕਾ	pakkā	パッカー	熟した，完成した
ਬਿੱਲੀ	billī	ビッリー	猫
ਮੱਛੀ	$macc^h$ī	マッチー	魚
ਮਨੁੱਖ	$manukk^h$	マヌック	人間
ਰੱਬ	rabb	ラッブ	神
ਲੱਤ	latt	ラット	脚
ਵੱਡਾ	waḍḍā	ワッダー	大きい

10. 付加文字

母音 a を介さず子音と子音が結合する場合，結合する特定の子音を変化または縮小させた付加文字を用います。先行する任意の子音字の下に付けます。

(1) ਰ の付加文字

ਸ੍ਰੀ	srī	スリー	人の姓や神の名の前に付けて崇敬の意を表す言葉
ਸ੍ਰੋਤਾ	srotā	スローター	聞き手，聴取者
ਕ੍ਰਾਂਤੀ	krā̃tī	クラーンティー	革命，変革
ਗ੍ਰੰਥ	grant^{h}	グラント	書物，聖典
ਦ੍ਰਿਸ਼ਟੀ	driśṭī	ドリシュティー	視力，視線，見解
ਪ੍ਰੇਮ	prem	プレーム	愛，恋
ਅੰਮ੍ਰਿਤ	ammrit	アンムリト	不死の甘露

(2) ਵ の付加文字

ਸ੍ਵਦੇਸ਼	swadeś	スワデーシュ	自国，母国
ਸ੍ਵਰ	swar	スワル	声，音
ਸ੍ਵਾਸ	swās	スワース	息，休息
ਦ੍ਵੰਦ	dwand	ドワンド	一対，対立，騒乱
ਦ੍ਵੈਤ	dwɛt	ドワェート	二元性，二元論

(3) ੍ਹ の付加文字

この付加文字は，先行する任意の子音字の表す子音と子音 h との結合ではなく，声調を伴う発音を表します。先行する子音字と一体になって声調文字となります。

声調文字	低声調，高声調
ਨ੍ਹ	nà , ◌́ na
ਮ੍ਹ	mà , ◌́ ma
ਰ੍ਹ	rà , ◌́ ra
ਲ੍ਹ	là , ◌́ la
ੜ੍ਹ	ṛà , ◌́ ṛa

高声調を伴う語の例

ਬੰਨ੍ਹਣਾ	bánnaṇā	バンナナー	縛る，結ぶ
ਥੰਮ੍ਹ	t^{h}ámm	タンム	柱
ਤਰ੍ਹਾਂ	tárā̃	タラーン	種類
ਕਿਲ੍ਹਾ	kílā	キラー	城，砦
ਪੜ੍ਹਨਾ	páṛnā	パルナー	読む，学ぶ

11. 半子音字

母音 a を介さず，任意の子音と子音 ਯ が結合する場合，先行する子音字の後に半子音字（ ਯ の後ろの半分）を用います。

ਯ の半子音字

ਗ੍ਯਾਨ	gyān	ギャーン	知覚，知識
ਜ੍ਯੋਤੀ	jyotī	ジュヨーティー	光，輝き，光明
ਵ੍ਯੰਜਨ	vyañjan	ヴャンジャン	表現，印，子音，料理

12. 声調

高声調と低声調に分けて，声調文字の位置と声調の関係を整理します。

(1) 高声調

高声調を伴う音節は，標準音程より高い音程で発声がなされ，続く音節中で標準音程に戻ります。声門を狭くする感じで，いきなり高い音程から強勢を伴って発声を開始する要領です。語中・語末の声調文字のうち，5種の子音字 ਘ ਝ ਢ ਧ ਭ は，同段の有声・無気の子音 g j ḍ d b として，また子音字 ਹ とその付加文字は，子音 h の消失した音として発音されます。そして声調文字の直前の音節が高声調を伴って発音されるのです。

高声調が生じるのは，語中・語末の声調文字の直前の音節です。ただし短母音の次の声調文字が長母音を伴い，さらに音節が続く場合は，直前の音節の短母音は高声調にはならず，声調文字自身が属する音節が低声調なります。

1) 語末の声調文字は，直前の音節の高声調を表します。

【短母音＋声調文字】

声調文字				
ਘ	ਸੰਘ	sáṅg	サング	連合，連盟，組織
ਝ	ਮੱਝ	májj	マッジュ	雌水牛
ਢ	ਮੁੱਢ	múḍḍ	ムッド	根，基礎
ਧ	ਦੁੱਧ	dúdd	ドゥッド	乳，ミルク，牛乳
ਭ	ਸਭ	sáb	サブ	すべての

【長母音＋声調文字】

声調文字				
ਘ	ਬਾਘ	bā́g	バーグ	虎
ਝ	ਬੋਝ	bój	ボージュ	重荷，負担
ਢ	ਵਾਢ	wā́ḍ	ワード	切ること，切断，殺害
ਧ	ਵਿਰੋਧ	viród	ヴィロード	反対，対抗
ਭ	ਲਾਭ	lā́b	ラーブ	利益，獲得

2) 語末の声調文字が母音を伴う場合も，直前の音節の高声調を表します。

【短母音＋声調文字＋母音記号】

声調文字				
ਘ	ਕੰਘਾ	káṅgā	カンガー	櫛
ਝ	ਹੰਝੂ	háñjū	ハンジュー	涙
ਢ	ਕੁੰਢਾ	kúṇḍā	クンダー	曲がった
ਧ	ਸਿੱਧਾ	síddā	スィッダー	まっすぐの
ਭ	ਸਭਾ	sábā	サバー	議会，会議，集会，協会

【長母音＋声調文字＋母音記号】

声調文字				
ਘ	ਮਾਘੀ	mā́gī	マーギー	マーグ月の第１日
ਝ	ਮਾਝੀ	mā́jī	マージー	マージー方言
ਢ	ਵਾਢੀ	wā́ḍī	ワーディー	刈り入れ，収穫
ਧ	ਵਾਧੂ	wā́dū	ワードゥー	過剰な，余分な
ਭ	ਸੋਭਾ	sóbā	ソーバー	輝き，栄光，優雅さ

(2) 低声調

低声調を伴う音節は，標準音程より低い音程で発声がなされ，続く音節中で標準音程に戻ります。声門を狭くする感じで，母音が発音される直前に咽喉内で一瞬発声をとどめる要領です。語頭・語中の声調文字のうち，５種の子音字 ਘ ਝ ਢ ਧ ਭ は，同段の無声・無気の子音 k c ṭ t p または，有声・無気の子音 g j ḍ d b として発音されます。また子音字 ਹ とその付加文字は，子音 h の消失した音として発音されます。そして声調文字を含む音節自体が低声調を伴って発音されるのです。

低声調が生じるのは，語頭・語中の声調文字自身が属する音節または直後の音節です。１音節の語は語頭と見なします。語頭の声調文字が生じさせるのは必ず低声調です。語中の声調文字が低声調を生じさせるのは，語中の声調文字が長母音を伴い，さらに音節が続く場合です。

1) 語頭の声調文字は，第 1 音節の低声調を表します。

【声調文字＋母音記号】 1 音節の語

声調文字			
ਘ	ਘੀ kī̀	キー	精製バター
ਝ	ਝਾ cā̀	チャー	わっ《そっと近づいて驚かせるときの言葉》
ਢ	ਢੋ ṭò	トー	運べ
ਧ	ਧੀ dī̀	ティー	娘
ਭ	ਭੀ pī̀	ピー	…もまた

【声調文字＋短母音】の語頭

声調文字			
ਘ	ਘਰ kàr	カル	家
ਝ	ਝਸ càs	チャス	中毒
ਢ	ਢਿੱਡ ṭìḍḍ	ティッド	腹
ਧ	ਧਨ tàn	タン	富
ਭ	ਭੁੱਖ pùkk^{h}	プック	空腹

【声調文字＋長母音】の語頭

声調文字

ਘ	ਘੋੜਾ	kòṛā	コーラー	馬
ਝ	ਝੂਠ	cū̀ṭ^h	チュート	嘘
ਢ	ਢੋਲ	ṭòl	トール	太鼓
ਧ	ਧੋਤੀ	tòtī	トーティー	腰布
ਭ	ਭੀੜ	pī̀ṛ	ピール	群衆，人混み

2) 語中の声調文字が，長母音を伴い，さらに音節が続く場合，声調文字を含む音節または直後の音節の低声調を表します。この場合，字母表の５種の声調文字は無声音化せず，有声無気音になります。

声調文字

ਘ	ਚੁੰਘਾਈ	cuṅgā̀ī	チュンガーイー	授乳
ਝ	ਸੁਝਾਉ	sujā̀o	スジャーオー	提案，提言，示唆
ਢ	ਵਢਾਉਣਾ	waḍā̀uṇā	ワダーウナー	切らせる，刈り取らせる
ਧ	ਅਧਾਰ	adā̀r	アダール	基礎，土台
ਭ	ਸੁਭਾਉ	subā̀o	スバーオー	性格，気質，習性

13. ਹ を含むつづりの発音

単独の子音字 ਹ も声調文字の１つです。この文字は，他のつづり字の発音に影響を与える場合があります。ここで整理しておきます。

(1) 語頭では，子音 h は発音されます。

ਹੱਥ hattʰ ハット　手

ਹੁਣ huṇ フン　今

ਹੇਠ heṭʰ ヘート　下に

ਹੌਲੀ hɔlī ハォーリー ゆっくり

(2) 短母音の後に位置し，長母音を伴い，さらに音節が続く場合，子音 h は消失し，残った長母音が低声調を伴って発音されます。

ਤੁਹਾਡਾ tuā̀ḍā トゥアーダー あなたの，君の

ਕਹਾਣੀ kā̀ṇī カーニー　お話，短編小説

(3) 語中（ (2) を除く）と語末では，子音 h は消失し，直前の母音が高声調を伴って発音されます。

ਸੋਹਣਾ sóṇā ソーナー 美しい

ਚਾਹੁਣਾ cā́uṇā チャーウナー 望む，欲する

ਬੂਹਾ bū́ā ブーアー ドア，戸口

ਤੀਹ tī́ ティー ３０，３０の

(4) 母音記号を伴わない ਹ の直前に i , u がある場合，自身の ha の音は消失し，直前の母音 i , u をそれぞれ高声調を伴った é , ó に変化させます。

ਇਹ é エー これ，これら

ਕਿਹੜਾ kéṛā ケーラー どんな，どの，何という

ਵਿਹਲਾ wélā ウェーラー 暇な

ਮਿਹਰਬਾਨੀ mérbānī メールバーニー 親切，ありがとう

ਉਹ ó オー あれ，あれら

ਤੁਹਮਤ tómat トーマト 中傷，誹謗

(5) 母音記号を伴わない子音字の直後に i , u の母音記号を伴った ਹ がある場合，自身の hi , hu の音は消失し，直前の潜在母音 a をそれぞれ高声調を伴った έ , ɔ́ に変化させます。

ਕਹਿਣਾ kɛ́ṇā カェーナー 言う
ਰਹਿਣਾ rɛ́ṇā ラェーナー 住む
ਸ਼ਹਿਰ śɛ́r シャエール 都市，市，町
ਪਹਿਲਾ pɛ́lā パェーラー １番目の，最初の
ਪਹੁ pɔ́ パォー 夜明け
ਬਹੁਤ bɔ́t バォート 多くの，とても
ਵਹੁਟੀ wɔ́ṭī ワォーティー 妻

シャームキー文字と発音

グルムキー文字 (GM) 対照シャームキー文字表

下の表は、グルムキー文字(GM)、シャームキー文字(SM)を対照した表である。順序はシャームキー文字にあわせている。

Tr は本書で使用されている転写記号、IPA は国際音声記号を示す。

文字名(SM)直後の２桁数字は、伝統的な文字表における順番を示す。SM00 は該当する文字がないことを意味する。数字の後にａ，ｂ，ｃ，ｄ，ｅがついている文字（の連続）は伝統的な文字表には含まれない。

（　）内は既成の文字での代用であることを示す。

GM		Tr	IPA	SM##	独	尾	中	頭	Tr	名称
ੳ				SM00						
ੲ				SM00						
ਅ		a	[ə]	SM01	ا			ا◌	a	alif
ਆ		ā	[aː]	SM01a	آ	◌ا	◌ا◌	آ◌		
ਇ		i	[i]	SM01b	اِ			اِ◌		
ਉ		u	[u]	SM01c	اُ			اُ◌		
ਊ		ū	[uː]	SM01d	او	◌و	◌و◌	او◌		
ਓ		o	[oː]	SM01d	او	◌و	◌و◌	او◌		
ਔ		ɔ	[ɔː]	SM01d	او	◌و	◌و◌	او◌		
ਏ		e	[eː]	SM01e	اے	◌ے	◌ی◌	ای◌		
ਐ		ɛ	[ɛː]	SM01e	اے	◌ے	◌ی◌	ای◌		

ਬ	ba	[bə]	SM02	ب	ب◌	◌ب◌	◌ب	b	be
ਭ	pà, ◌́ba	[pə̀, ◌́bə]	SM02a	بھ	بھ◌	◌بھ◌	◌بھ		
ਪ	pa	[pə]	SM03	پ	پ◌	◌پ◌	◌پ	p	pe
ਫ	p^{h}a	[p^{h}ə]	SM03a	پھ	پھ◌	◌پھ◌	◌پھ		
ਤ	ta	[tə]	SM04	ت	ت◌	◌ت◌	◌ت	t	te
ਥ	t^{h}a	[t^{h}ə]	SM04a	تھ	تھ◌	◌تھ◌	◌تھ		
ਟ	ṭa	[ʈə]	SM05	ٹ	ٹ◌	◌ٹ◌	◌ٹ	ṭ	ṭe
ਠ	ṭ^{h}a	[ʈ^{h}ə]	SM05a	ٹھ	ٹھ◌	◌ٹھ◌	◌ٹھ		
(ਸ)	(sa)	([sə])	SM06	ث	ث◌	◌ث◌	◌ث	s̤	se
ਜ	ja	[ʤə]	SM07	ج	ج◌	◌ج◌	◌ج	j	jīm
ਝ	cà, ◌́ja	[ʧə̀, ◌́ʤə]	SM07a	جھ	جھ◌	◌جھ◌	◌جھ		
ਚ	ca	[ʧə]	SM08	چ	چ◌	◌چ◌	◌چ	c	ce
ਛ	c^{h}a	[ʧ^{h}ə]	SM08a	چھ	چھ◌	◌چھ◌	◌چھ		
(ਹ)	(ha)	([hə])	SM09	ح	ح◌	◌ح◌	◌ح	ḥ	(baṛī)he
ਖ਼	xa	[xə]	SM10	خ	خ◌	◌خ◌	◌خ	x	xe
ਦ	da	[də]	SM11	د	د◌	◌د◌	◌د	d	dāl
ਧ	tà, ◌́da	[tə̀, ◌́də]	SM11a	دھ	دھ◌	◌دھ◌	◌دھ		
ਡ	ḍa	[ɖə]	SM12	ڈ	ڈ◌	◌ڈ◌	◌ڈ	ḍ	ḍāl
ਢ	ṭà, ◌́ḍa	[ʈə̀, ◌́ɖə]	SM12a	ڈھ	ڈھ◌	◌ڈھ◌	◌ڈھ		

(ਜ਼)		(za)	([zə])	SM13	ذ	ذ◌	◌ذ◌	◌ذ	z̲	zāl
ਰ		ra	[rə]	SM14	ر	ر◌	◌ر◌	◌ر	r	re
ੜ		ṛa	[ɽə]	SM15	ڑ	ڑ◌	◌ڑ◌	◌ڑ	ṛ	ṛe
ੜ੍ਹ		ṛà, ◌́ṛa	[ɽə̀, ◌́ɽə]	SM15a	ڑھ	ڑھ◌	◌ڑھ◌	◌ڑھ		
ਜ਼		za	[zə]	SM16	ز	ز◌	◌ز◌	◌ز	z	ze
(ਜ)		(ja)	([ʤə])	SM17	ژ	ژ◌	◌ژ◌	◌ژ	ž	zhe
ਸ		sa	[sə]	SM18	س	س◌	◌س◌	◌س	s	sīn
ਸ਼		śa	[ʃə]	SM19	ش	ش◌	◌ش◌	◌ش	ś	śīn
(ਸ਼)		(śa)	([ʃə])	(SM19)	(ش)	(ش◌)	(◌ش◌)	(◌ش)	(ś)	(śīn)
(ਸ)		(sa)	([sə])	SM20	ص	ص◌	◌ص◌	◌ص	ṣ	svād
(ਜ਼)		(za)	([zə])	SM21	ض	ض◌	◌ض◌	◌ض	ẓ	zād
(ਤ)		(ta)	([tə])	SM22	ط	ط◌	◌ط◌	◌ط	ṭ	to'e
(ਜ਼)		(za)	([zə])	SM23	ظ	ظ◌	◌ظ◌	◌ظ	ẓ	zo'e
(ਅ)		(a)	([ə])	SM24	ع	ع◌	◌ع◌	◌ع	a	`ain
ਗ਼		ğa	[ɣə]	SM25	غ	غ◌	◌غ◌	◌غ	ğ	ğain
ਫ਼		fa	[fə]	SM26	ف	ف◌	◌ف◌	◌ف	f	fe
ਕ਼, ਕ		qa, ka	[kə]	SM27	ق	ق◌	◌ق◌	◌ق	q	qāf
ਕ		ka	[kə]	SM28	ک	ک◌	◌ک◌	◌ک	k	kāf
ਖ		k^ha	[k^hə]	SM28a	کھ	کھ◌	◌کھ◌	◌کھ		

ਗ	ga	[gə]	SM29	گ	گ◌	◌گ◌	◌گ	g	gāf
ਘ	kà, ◌́ga	[kə̀, ◌́gə]	SM29a	گھ	گھ◌	◌گھ◌	◌گھ		
ਲ	la	[lə]	SM30	ل	ل◌	◌ل◌	◌ل	l	lām
ਮ	ma	[mə]	SM31	م	م◌	◌م◌	◌م	m	mīm
ਨ	na	[nə]	SM32	ن	ن◌	◌ن◌	◌ن	n	nūn
ਙ	ṅa	[ŋə]	(SM32)	(ن)	(ن◌)	(◌ن◌)	(◌ن)	(n)	(nūn)
ਞ	ña	[ɲə]	(SM32)	(ن)	(ن◌)	(◌ن◌)	(◌ن)	(n)	(nūn)
ਣ	ṇa	[ɳə]	SM32a	ڻ	ڻ◌	◌ڻ◌	◌ڻ	ṇ	ṇūṇ
			SM32b	ں	ں◌			◌̃	nūn ğunnā
ਵ	va	[və]	SM33	و	و◌	◌و◌	◌و	v	vāo
ਹ	ha	[hə]	SM34	ہ	ہ◌	◌ہ◌	◌ہ	h	(c^{h}oṭī)he
		[^{h}]	SM34a	ھ	ھ◌	◌ھ◌	◌ھ	^{h}	do cašmī he
ਯ	ya	[jə]	SM35	ی	ی◌, ے	◌ی◌	◌ی	y, ī, e	ye
ਈ	ī	[iː]	(SM35)	(ای)	(ی◌)	(◌ی◌)	(◌ای)		
੦			SMn0	۰					
੧			SMn1	۱					
੨			SMn2	۲					
੩			SMn3	۳					
੪			SMn4	۴					

૫				SMn5	۵					
૬				SMn6	۶					
૭				SMn7	۷					
૮				SMn8	۸					
૯				SMn9	۹					

1 ا　呼び名：アリフ (alif)

発音：語頭　／a／／i／／u／　語中・語尾 ／ā／

書き方：上から下に書きます。

2～6 までのグループはお皿のような形が基本形です。

2 ب　呼び名：ベー (be)

発音：／b／

書き方：お皿を書いて、下に点を１つ打ちます。

3 پ　呼び名　ペー (pe)

発音：／p／

書き方：お皿を書いて下に点を３つ打ちます。点の打ち方は、下にむかって２つ、１つとなります。

4 ت　呼び名　テー (te)

発音：／t／ 。(22 番と同じ)

書き方：お皿を書いてからその上に２つ点を打ちます。

5 ٹ　呼び名：テー (ṭe)

発音：／ṭ／

書き方：お皿を書いてから、上に小さなトーエを書きます

6 ث　呼び名：セー (se)

発音：／s／ (18 番、20 番と同じ)

書き方：お皿を書いてから、上に点を３つ打ちます。このとき下に点が２つ、上に１つとなります。

7～10 のグループはひらがなの「て」のような形 ح が基本形です

7 ج　呼び名：ジーム (jīm)

発音：／j／

書き方： ح の字を書いて点を一つ打ちます。

8 چ　呼び名：チェー (ce)

発音：／c／

書き方： ح の字を書いて点を３つ打ちます。点は上が２つ、下が１つです。

9 ح　呼び名：ヘー (he) 34 番で出てくるヘーと区別するために、「大きい」という意味の形容詞バリーをつけてバリー・ヘー (baṛī he)と呼ばれることがあります。

発音：／h／ (34 番と同じ)

書き方： ح の文字だけです

10　خ　呼び名：へー（xe）

発音：/ x /　英語の x から類推して ks と発音しないように注意してください

書き方：ح の文字を書いてから、上に点を 1 つ打ちます。

11～13 の文字のグループの基本形はひらがなのくの字を反対にしたような形をしています。11 番のダールの文字とギリシャ語のΔの文字は起源が同じですので、Δから／を取ったものがダールになると記憶するのも１つの方法です

11　د　呼び名：ダール（dāl)

発音：/ d /

書き方：上から下に書きます。

12　ڈ　呼び名：ダール（ḍāl）

発音：/ ḍ /

書き方：د を書いてから、上に小さいトーエを付けます。

13　ذ　呼び名：ザール（zāl）

発音：/ z /　（16 番、21 番、23 番と同じ）

書き方：د を書いてから、上に１つ点をつけます。

１４から１７の文字の基本形はカタカナの「ノ」に似ています

14　ر　呼び名：レー（re）

発音：/ r /

書き方：上から下に書く

15　ڑ　呼び名：レー（ṛe）

発音：/ ṛ /

書き方：ر を書いたあと、上に小さなトーエを書きます。

16　ز　呼び名：ゼー（ze）

発音：/ z /　（13 番、21 番、23 番と同じ）

書き方：ر を書いたあと、上に１つ点を打ちます

17　ژ　呼び名：ジェー（že)

発音：/ ž /

書き方：ر を書いたあと、上に３つ点を打ちます。

18、19 のグループは英語のwが丸まったような形を書いた後、つぼのような円形を書きます。シーンはギリシャ語のΣ（シグマ）と起源が同じなので、それが左に９０度横倒しになったと考えると記憶しやすいかもしれません。

18　س　呼び名：スィーン（sīn）

発音：/ s /

書き方：丸まった「w」を書いてから、つぼのような円形を書きます。

19　ش　呼び名：シーン（śīn）

発音：/ś /

書き方：س を書いてから上に点を３つ付けます。

20　ص　呼び名：スワード（swād）　あるいはサード（sād）

発音：/ s /　（6 番、18 番と同じ）

書き方：やや細い楕円を書いた後、つぼのような円形を書きます。

21　ض　呼び名：ズワード（zwād）あるいはザード（zād）

発音：/ z /　（13 番、16 番、23 番と同じ）

書き方：20 番のスワードص を書いてから、上に点を１つ付けます。

22,23 は音楽記号のフラットに形が似ています。

22　ط　呼び名：トーエ（toe）

発音：/ t /　4 番と同じです。

書き方：音楽記号のフラット♭の要領で書いてください

23　ظ　呼び名：ゾーエ（zoe）

発音：/ z /　（3 番、16 番、21 番と同じ）

書き方：ط を書いてから上に点を１つ付けます。

24　ع　呼び名：アェーン（ɛn）

発音：ウルドゥー語では音をもたない文字です

書き方：数字の３が反対になったような形です。アインはアラビア語で「目」を意味し、目の象形文字から発達したものです。何となく目が２つあるような感じがします。

25　غ　呼び名：ガェーン（ğɛn）

発音：/ ğ /

書き方：24 番のアェーン ع を書いたあと、上に点を１つ打ちます。

26　ف　呼び名：フェー（fe）

発音：/ f /

書き方：小さな丸を書いたあと、横に伸ばしていき、最後に上に点を１つ打ちます。

27　ق　呼び名：カーフ（kāf）

発音：/ k /

書き方：小さな丸を書いたあと、下に向かってつぼのような形を書き、最後

に上に点を２つ打ちます。

28 ک 呼び名：カーフ（kāf）

発音：/ k /

書き方：お皿を書き、斜線を書きます。

29 گ 呼び名：ガーフ（gāf）

発音：/ g /

書き方：斜線の下にカーフを書きます。

30 ل 呼び名：ラーム（lām）

発音：/ l /

書き方：釣り針のような形を書きます。

31 م 呼び名：ミーム（mīm）

発音：/ m /

書き方：小さな丸を書いてから、垂直方向におろしてやります。

32 ن 呼び名：ヌーン（nūn）

発音：/ n /

書き方：つぼのような形を書いてから、点を１つ打ちます。

32a ڼ 呼び名：ヌーン（nūn）

発音：/ ṇ /

書き方：つぼのような形を書いてから、点を上下に２つ打ちます。

32b ں 呼び名：ヌーン・グンナー（nūn ğunna）

発音：語末の鼻母音を表記するために用いられます

書き方：つぼのような形を書きます。

33 و 呼び名：ワーオ（wāo）

発音：/ v // w /。語中・語尾では / ū // o // ɔ/ を表記するためにも使われます。

書き方：数字の９を丸めて書く要領です。

34 ہ 呼び名：へー（he）。９番のへーと区別するために、「小さい」という意味の形容詞チョーティーを付けて、チョーティー・へー（choṭī he）と呼ばれることがあります。

発音：/ h /　（9 番と同じ）

書き方：おにぎりのような形を書きます。

34a ھ 呼び名：ドーチャシュミー・へー（do cašmī he）

発音：有気音の表記に用いられます。

書き方： 目玉のような形をつづけて２つ書きます。

35a ی 呼び名：チョーティー・イェー (choṭī ye)

発音：語尾で/ ī /

書き方： s をひしゃげたような形を書く。

35b ے 呼び名：バリー・イェー (baṛī ye)

発音：語尾で/ e / / ɛ /

書き方：「く」のように書きます。

独立字、頭字、中字、尾字について

ウルドゥー文字は右から左に書き、出来るだけつなげて書きます。それを一つの流れと考えると、単語の流れの最初に使われるのが頭字、中間に使われるのが中字、最後に使われるのが尾字ということになります。

独立字から頭字、中字、尾字がどのように作られるかについて

頭字　つなげて書くために、独立字から余分な部分を省きます。

中字　単語の中間に使われるので、頭字に前の文字とつなげるための線が加わります。

尾字　単語の最後に使われるので、独立字に前の文字とつなげるための線が加わります。

ではそれぞれの文字の頭字、中字、尾字をみていきましょう。

１のアリフ ا は次の文字とはつながらないので、独立字・頭字と中字・尾字は同じになります。

２～６のグループ (ب پ ت ٹ ث) の頭字は、お皿の形 ٮ の右端 ﺑ が基本形になり、それに点や記号を付け加えます。中字は頭字に前の文字とつなげるための線が加わります。尾字は独立字に前の文字とつなげるための線が加わります。

７～１０のグループ（ خ ح چ ج ）の頭字は「て」の字 ح の上部 ◌حـ が基本形になり、それに点を付け加えます。中字は頭字に前の文字とつなげるための線が加わります。尾字は独立字に前の文字とつなげるための線が加わります。つなげる線が斜め上からくることに注意してください。

１１～１３のグループ （ ذ ڈ د ）はアリフと同じく次の文字とはつながらないので、独立字と頭字、中字と尾字は同じになります。

１４～１７のグループ（ ژ ز ڑ ر ）はアリフと同じく次の文字とはつながらないので、独立字と頭字、中字と尾字は同じになります。

１８～１９のグループ（ ش س ）の頭字はس の右半分 ◌سـ が基本形になります。中字は頭字に前の文字とつなげるための線が加わります。尾字は独立字に前の文字とつなげるための線が加わります。

２０～２１のグループ（ ض ص ）の頭字は ص の右半分 ◌صـ が基本形になります。中字は頭字に前の文字とつなげるための線が加わります。尾字は独立字に前の文字とつなげるための線が加わります。

２２～２３のグループ（ ظ ط ）は独立字 ط が基本形になり、それに前や後ろの文字とつなげるための線がついたものが、頭字・中字・尾字となります。

２４～２５のグループ（ غ ع ）の頭字は ع の上部 ◌عـ が基本形になります。中字は頭字とは異なり、漢字の叉のような形になります。尾字は独立字と中字を合わせたような形になります。

２６～２７のグループ（ ق ف ）は独立字と尾字は形が異なりますが、頭字と中字は同じ形になり ق ف の上部 ◌فـ ◌قـ が頭字になります。中字は頭字に前の文字とつなげるための線が加わります。尾字は独立字に前の文字とつなげるための線が加わります。

２８～２９のグループ（ گ ک ）はそれぞれの右半分 ◌کـ ◌گـ が基本形になりま

す。中字は頭字に前の文字とつなげるための線が加わります。尾字は独立字に前の文字とつなげるための線が加わります。

３０のラーム ل の頭字は右半分 ﻟ が基本形になります。中字は頭字に前の文字とつなげるための線が加わります。尾字は独立字に前の文字とつなげるための線が加わります。

３１の ミーム م の頭字は右半分 ﻣ が基本形になります。書くときには下から丸めます。中字は下に丸めます。尾字も独立字とは違い、下で丸めます。

３２a のヌーンن と３２b のヌーン ڻ の頭字は右端 ﻧ ڻ が基本形になり、２～６のグループ（ ب پ ت ٹ ث ）と同じになります。中字は頭字に前の文字とつなげるための線が加わります。尾字は独立字に前の文字とつなげるための線が加わります。

３３のワーオو はアリフやダールやレーのグループと同じく、次の文字とはつながらないので、独立字と頭字、中字と尾字は同じになります。

３４a のチョーティー・ヘー ہ は頭字、中字、尾字がそれぞれ異なっているので注意してください。

３４b のドーチャシュミー・ヘー ھ は頭字、中字、尾字とも独立字に前後の文字とつながる線がついているだけです。この文字は前の文字と一緒になり、有気音を表記するために用いられます。

３５のイェーは頭字、中字は２～６のグループ（ ب پ ت ٹ ث ）やヌーン（ ن ）と同じ形になります。尾字は３５a のチョーティー・イェー ی が長母音の ī を表記するために用いられ、バリー・イェー ے が長母音の e と二重母音の ɛ を表記するために用いられます。

シャームキー文字のつづりかたについて

独立字	前とも後ろともつながらないときに使われる。
頭字	後ろの文字とつながるときに使われる。
中字	前と後ろの文字とつながるときに使われる。

尾字　　　　前の文字とつながり、そこで単語が終わるときに使われる。

例えば１つの単語が４つの文字からなっているとすると、[4] [3] [2] [1]　１には頭字を使い、２と３には中字を使い、４には尾字を使うことになります。

注意しなければならないのが、اردو の文字のグループ（ا د ڈ ذ ر ڑ ز ژ و）です。これらの文字は**次の文字とつながらない**という特徴があります。つまり、このグループの文字がくると、つづりの流れがいったん途切れてしまうわけです。そのため次の文字はまた**頭字から始める**ことになります。

例　ت ا ج ر　をつなげて書こうとすると、ا は次の文字とはつながらないので、つづりの流れがいったん途切れ、ج は頭字を使うことになり、تاجر　tājir（ 商人 ）となります

単語の最後から２番目にاردو のグループの文字が来た場合には、**最後の文字は独立字を使います**。尾字は前の文字とつながる場合に用いられる文字なので、この場合には使われません。

例　ک ، ب ، ا ، ب をつなげて書く場合、最後から２番目に ا がありますので、最後の ب は独立字を使い、کباب　kabāb（カバーブ）となります。

１　短母音 a, i, u の表記について

① 語頭では ا で表記される。

例　اب ab（今）　اسلام islām　（イスラーム）　امید ummīd　（希望）

＊　語頭の ع を a, i, u と読むことがある。

例　عقل akal　（知性）عشق išq（愛）　عرس urs（聖者の命日の祭り）

②　語中では表記されない。→子音のあとにa、i、u を付けて読むことができる。

例　پل　pal（瞬間）　پلپلا　pilpilā（たるんだ）　پل　pul（橋）

またa、i、u を付けないで次の子音がくる場合もある。

例　پلاسٹک　plāsṭik（ビニール袋）

③ 語尾ではah をa と発音する場合を除いてa、i、u が来ることはない。

２　長母音 ī, ū, e, o と二重母音 ɛ, ɔ の表記について

Ⅰ　ā の表記

①　語頭ではアリフ ا の上にマッドと呼ばれる記号をつけて表記する。

例　آب　āb（水）
＊　語頭の عا も ā と読む。　例　عالم　ālam（世界）
②　語中、語尾では ا で表記する。
例　اسلام　islām（イスラーム）　وڈّا　waḍḍā（大きな）

Ⅱ　ī, e, ɛ の表記
①　語頭では ای で表記する。
例　ایمان　īmān（信仰）
＊語頭のعیを ī, ɛ と読む場合もある。
例　عید　īd（イード）عینک　ɛnak（めがね）
②　語中では　ی　で表記する。
例　پیر　pīr（月曜日）دیر　der（遅れ）
③　語尾では ī をチョーティー・イェー ی で表記し、e, ɛ をバリー・イェー ے で表記する。
例　پانی　pāṇī（水）　منڈے　munḍe（少年たち）

Ⅲ　o, ɔ の表記
①　語頭では او で表記する。
例　اوپرلا　ūparlā（上の）　اوس　os（露）اوکھا　ɔkhā（そして）
＊　語頭の　عو　を ū, ɔ　と読む場合もある。
例　عود　ūd　(沈香じんこう）عورت　ɔrat（女性）
②　語中・語尾では و で表記する。
例　بو　bū（におい）　کرو　karo（…してください）کوݨ　kɔṇ（誰）